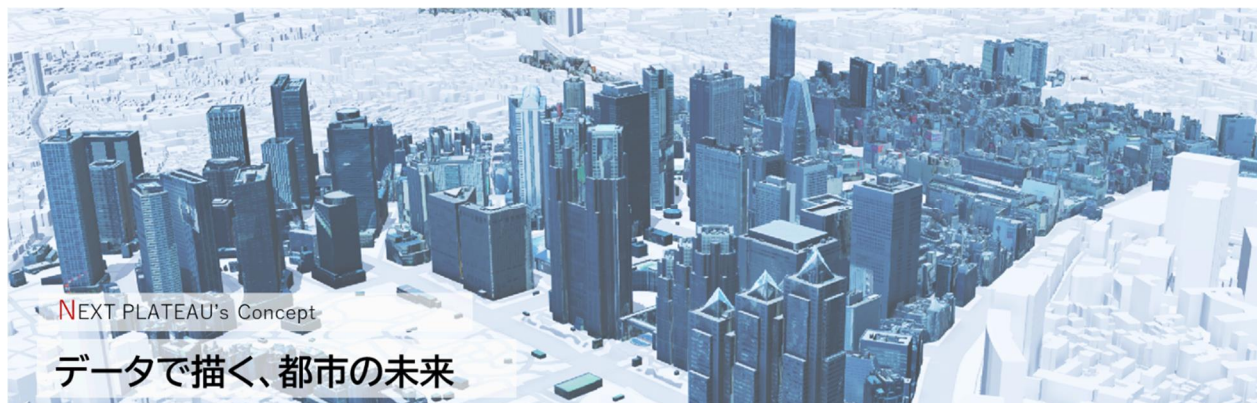


令和7年6月16日
都市局国際・デジタル政策課

「PLATEAU RFI#1」を実施 ～2026年度に向けたProject PLATEAU 情報提供依頼・第一弾～

国土交通省は、Project PLATEAU における3D都市モデルの整備・活用・オープンデータ化の各取組において、2026年度に向けた情報提供依頼（RFI#1）を実施します。



都市デジタルツインの実現を目指し、国土交通省が様々なプレイヤーと連携して推進する **Project PLATEAU（プラトー）** では、2020年度のスタート以降、そのポテンシャルを示すことに焦点を当て、様々な分野におけるソリューション開発やコミュニティ育成、技術開発等に取り組んできました。

これまでの取組みによって3D都市モデルの可能性が明らかになりつつある現在、PLATEAUはプロトタイピングのフェーズから、実際に「役立つ」具体的なサービスを実装するフェーズへと歩を進める必要があることから、国、地方公共団体、民間事業者、研究機関等の多様なプレイヤーがそれぞれのイニシアティブで取組みを進める「PLATEAUエコシステム」の本格構築に向けた施策を講じていきます。

このため、広く産学官民の多様な主体が有する先進的・独創的なアイデア、知見・ノウハウ、技術・サービス等の情報を参考としたく、7つのテーマで「**Project PLATEAU 事業推進に向けての情報提供依頼（RFI#1）（2026年度向け）**」を実施します。

詳細は、別紙や参考資料、応募ページをご覧ください。

<問い合わせ先>

都市局 国際・デジタル政策課 下村、影野、関根、宮崎
電話：03-5253-8111(内線 32264)、直通 03-5253-8422
メール：hqt-mlit-plateaurfi2★ki.mlit.go.jp（★を@にかえて送信ください）



<Project "PLATEAU">

ウェブサイト：www.mlit.go.jp/plateau/
X（旧 Twitter）：@ProjectPlateau

募集期間

令和7年6月16日（月）から令和7年7月15日（火）まで

情報提供主体

各募集テーマの実施主体となりうる民間事業者、大学、研究機関、団体等

募集テーマ

本 RFI では、以下のテーマごとにアイデアや提案を募集します。

- 1) データカバレッジの拡大
3D 都市モデルのデータ整備・更新を推進するため、標準データモデルの拡張やデータ整備手法の効率化等を進める企画
- 2) ユースケース開発
3D 都市モデルを活用した社会課題の解決や新たな価値創出を実現するソリューション開発の企画
- 3) コミュニティ形成
3D 都市モデルに関する国内の技術力向上、開発参加者のすそ野拡大、ナレッジ共有等のためのコミュニティ形成を進める企画
- 4) サービス実装
実装レベルの 3D 都市モデルを活用したサービスの開発・事業化・提供を促進する企画
- 5) 地域のデジタルケイパビリティ向上
地方公共団体職員や地域コミュニティ、住民、地域民間事業者等がデータを用いて課題解決を行うための知識やスキル、技術の普及を促進する企画
- 6) オープン・イノベーション創出
PLATEAU 実装へのブレイクスルーをもたらすシーズ開発の支援など、イノベーションの創出を促進する企画
- 7) エコシステム構築
地方公共団体、産業界、大学等の研究機関、地域コミュニティ、国等が連携し、3D 都市モデルの実装を促進する体制を構築する企画

応募ページ

本 RFI#1 では、以下のウェブサイトを構築し、実施要領や応募様式等、詳細情報を掲載しています。また、本 RFI#1 の説明会〔（第1回）令和7年6月24日（火）17：00～18：00、（第2回）6月25日（水）15：00～16：00〕を開催いたします。説明会への参加申込み方法等についてもこちらに掲載していますので、ご覧ください。

応募ページ：https://www.mlit.go.jp/toshi/daisei/plateau_rfi2026_01.html

参考

Project PLATEAU の概要等については、以下 URL のウェブサイト等をご参照下さい。

- ・ PLATEAU 2025 年度事業に関する報道発表資料（2025/4/25）
https://www.mlit.go.jp/report/press/toshi03_hh_000167.html
- ・ PLATEAU ウェブサイト
<https://www.mlit.go.jp/plateau/>
- ・ 3D 都市モデル標準製品仕様書
<https://www.mlit.go.jp/plateaudoocument/>
- ・ PLATEAU 補助事業ウェブサイト
https://www.mlit.go.jp/toshi/daisei/plateau_hojo.html

参考 令和7年度 都市局関係予算概算要求概要

5. まちづくりDX

(1) 3D都市モデルの整備・活用・オープンデータ化の推進

Project PLATEAUでは、2020年から全国で3D都市モデルの整備・活用・オープンデータ化を推進している。

本プロジェクトは5年目を迎え、実装フェーズへ移行したことを踏まえ、3D都市モデルの整備・活用の更なる効率化・汎用化や、防災、暑熱対策等の社会的必要性が高い分野におけるユースケースの開発といった基幹的施策を重点的に進める。また、2027年整備目標500都市に向けて地方自治体における3D都市モデル整備等への支援を拡充しつつ、民間サービス実装等へ支援対象を拡大する。

都市空間情報デジタル基盤構築調査	都市空間情報デジタル基盤構築支援事業
<p>国によるPLATEAUを駆動させていくための基幹的施策</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid #ccc; padding: 5px; width: 30%;"> <p>1 データ・カバレッジ拡大</p> <p>モデル整備作業の自動化・効率化、データ形式標準最新化に向けた実務検討</p> </div> <div style="border: 1px solid #ccc; padding: 5px; width: 30%;"> <p>2 ユースケース開発</p> <p>防災、暑熱対策ユースケース開発、外部機関との連携強化、開発ツールの汎用化</p> </div> <div style="border: 1px solid #ccc; padding: 5px; width: 30%;"> <p>3 コミュニティ形成</p> <p>ナレッジ共有やネットワークのためのコミュニティ形成、若年層へのアプローチ強化</p> </div> </div> <p style="text-align: center;">+</p> <p>国による各主体の役割を円滑化・促進する環境整備施策</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid #ccc; padding: 5px; width: 30%;"> <p>4 民間/自治体での実装</p> <p>実装レベルのサービス開発・事業化・提供の促進、ニーズシズマッチングの支援</p> </div> <div style="border: 1px solid #ccc; padding: 5px; width: 30%;"> <p>5 地域のデジタルケイバ向上</p> <p>自治体業務でデータが活用できる人材の育成、地場企業へのモデル整備技術普及</p> </div> <div style="border: 1px solid #ccc; padding: 5px; width: 30%;"> <p>6 オープンイノベーション創出</p> <p>新技術開発やデータ利用環境向上、初心者向けデータ処理技術のOSS開発</p> </div> </div> <p style="text-align: center;">+</p> <p style="text-align: center; background-color: #f2f2f2; padding: 5px;">産学官連携によるエコシステム構築</p> <p style="text-align: center; background-color: #f2f2f2; padding: 5px;">自律的な実装を推進する、国、地方公共団体、産業界、研究機関の連携体制の構築</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>データ・カバレッジ拡大</p> <p>整備都市拡大のための効率化やBIM等との連携を推進し、標準仕様CityGML3.0への転換も検討。</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>地域のデジタルケイバ向上</p> <p>自治体へ3D都市モデルを活用した課題分析や政策検討の研修、地場企業へモデル整備研修を実施。</p> </div> </div>	<p>3D都市モデルの整備・活用・オープンデータ化を推進するための地方自治体への支援</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>補助対象事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 3D都市モデルの整備に関する事業 <ul style="list-style-type: none"> ✓ 3D都市モデルの整備・更新、3D都市モデルの整備等に必要元データの整備等、作成データを可視化するためのシステム導入・改修等 ■ 3D都市モデルの活用に関する事業 <ul style="list-style-type: none"> ✓ 3D都市モデルを活用したユースケースの実装に必要な分析・シミュレーションやアプリ開発、政策活用等 ■ 3D都市モデルの整備・活用・オープンデータ化推進事業 <ul style="list-style-type: none"> ✓ 専門家派遣やワークショップ・ピッチイベントの開催、関連情報のデジタル化やGISシステムの導入・改修等 <p>補助率等</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 通常タイプ 定率1/2 ■ 早期実装タイプ 上限1,000万円 定額補助* <p>※ 早期に課題解決や新たな価値創造が図られる事業（事業初年度に限る。）</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>地域への実装イメージ</p>  <p>3D都市モデルをメインクラフトデータに変換し、子どもたちが自由な発想でまちづくりを検討するアイデアコンペを実施（香川県高松市）</p> <p style="text-align: center; border: 2px dashed red; padding: 5px;">民間サービス等への実装領域拡大 ✖</p> <p>補助対象の拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 民間向け補助事業の創設 <ul style="list-style-type: none"> ✓ 民間主体の3D都市モデルを活用した取組を後押しする「民間サービスタイプ」を創設 ■ 地方自治体のニーズに応じた補助事業者等の拡充 <ul style="list-style-type: none"> ✓ 広域連合や一部事務組合等の特別地方公共団体や間接補助による整備・活用 </div> </div>

※令和7年度は、都市空間情報デジタル基盤構築支援事業において、PLATEAUを活用した「民間ビジネス実装タイプ」の支援を開始しました（令和7年度は7事業を採択）。

https://www.mlit.go.jp/report/press/toshi03_hh_000166.html

PLATEAU RFI(情報提供依頼)は、PLATEAUのプロジェクト価値を高め ていくための産学官連携施策の一つです。

- 国土交通省都市局が様々な主体と連携して進めるProject PLATEAUでは、都市デジタルツインの実装モデル「3D都市モデル」の整備・活用・オープンデータ化を推進していくため、幅広い産学官のプレイヤーとの連携を重視しています。
- 都市デジタルツインは新しい技術であり、これを社会実装していくためには、どのような施策や技術開発、スキーム構築などが必要なのか、幅広いプレイヤーと議論していくことが重要です。
- そこで、Project PLATEAUでは、RFI(情報提供依頼)として、次年度以降のプロジェクト採択に向けたアイデアや提案を募集します。
- RFI#1では、FY2026のテーマに応じた基本的なアイディエーションを行うことを狙った「提案募集型」RFIを行います。RFI#2ではこれを基にして作成したプロジェクト原案に対する技術提案を募集する「意見募集型」RFIを行っていく予定です。ぜひご参加ください。

ホーム > 報道・広報 > 経済産業省 > 都市デジタルツインの実装モデルの整備・活用・オープンデータ化を推進するためのRFI#1(情報提供依頼・第一弾)を実施
都市デジタルツインの実装モデルの整備・活用・オープンデータ化を推進するためのRFI#1(情報提供依頼・第一弾)を実施



都市デジタルツインの実現を目指し、国土交通省が様々なプレイヤーと連携して推進するProject PLATEAU(プラトール)では、2020年度のスタート
 焦点を当て、様々な分野におけるソリューション開発やコミュニティ育成、技術開発等に取り組んできました。
 これまでの取組みによって3D都市モデルの可能性が明らかになりつつある現在、PLATEAUはプロトタイピングのフェーズから、実際に「役立つ」具
 体を進める必要があります。2025年度では、国主導の推進体制から国、地方自治体、民間企業、研究機関等の多様なプレイヤーがそれぞれのイニシア
 システムの本格構築に向けた施策を講じていきます。
 このため、広く産学官民の多様な主体が有する先進的・創発的なアイデア、知見・ノウハウ、技術・サービス等の情報を参考といたし、7つのテ
 ーマの「情報提供依頼(RFI#1)(2024年度)」を実施いたします。
 詳細は、参考資料や応募ページをご覧ください。

- 募集期間
令和6年6月24日(月)から令和6年7月26日(金)まで
- 情報提供主体
各募集テーマの実施主体となりうる企業、大学、研究機関、団体等

スケジュール

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
2026年度に向けた動き			RFI #1 6/16(月)~7/15(火) ※2026年度に向けた企 画提案の情報提供依頼	ヒアリング ※RFIをもとに具体的な 技術提案の情報提供依頼	RFI #2	ヒアリング ※企画競争提案の説明会 及びRFIをもとにしたヒ アリング等			公示手続等 ※2026年度企画競争提案に関する手続き等			

※今後変更される可能性があります。

NEXT PLATEAU's Concept

データで描く、 都市の未来

FY2020の立ち上げ以来、Project PLATEAUでは3D都市モデルの価値を引き出し、そのポテンシャルを示すことに焦点を当て、様々な分野におけるソリューション開発やコミュニティ育成、技術開発等に取り組んできました。

これまでの取り組みによって3D都市モデルの可能性が明らかになりつつある現在、PLATEAUはプロトタイピングのフェーズから、実際に「役立つ」具体的なサービスを実装するフェーズへと歩を進める必要があることから、国、地方公共団体、民間事業者、研究機関等の多様なプレイヤーがそれぞれのイニシアティブで取り組みを進める「PLATEAUエコシステム」の本格構築に向けた施策を講じていきます。

RFI#1では、**都市デジタルツインの社会実装がもたらす“未来”を具体化していくため、7つのテーマでプロジェクトのアイデアを募集します。**



01

データ・カバレッジ拡大

3D都市モデルのデータ整備・更新を推進するため、標準データモデルの拡張やデータ整備手法の効率化を進めます。



02

ユースケース開発

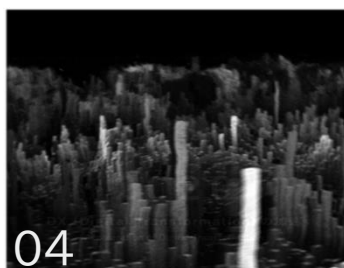
3D都市モデルを活用した社会課題の解決や新たな価値創出を実現するソリューション開発を進めます。



03

コミュニティ形成

3D都市モデルに関する国内の技術力向上、開発参加者のすそ野拡大、ナレッジ共有等のためのコミュニティ形成を進めます。



04

サービス実装

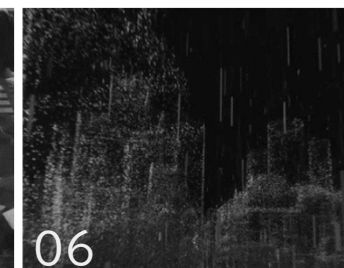
実装レベルの3D都市モデルを活用したサービスの開発・事業化・提供を促進します。



05

地域のデジタル ケイパビリティ向上

地方公共団体職員や地域コミュニティ、住民、地域企業等がデータを用いて課題解決を行うための知識やスキル、技術の普及を促進します。



06

オープン・ イノベーション創出

PLATEAU実装へのブレイクスルーをもたらすシーズ開発の支援など、イノベーションの創出を促進します。



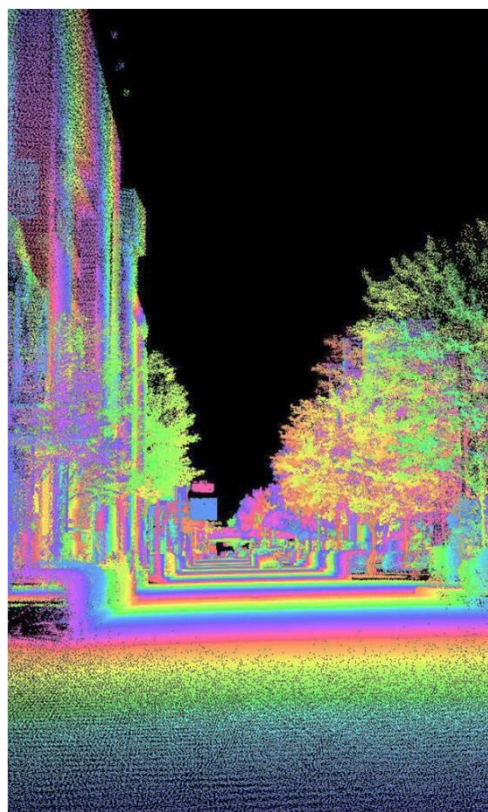
07

エコシステム構築

地方公共団体、産業界、大学等の研究機関、地域コミュニティ、国等が連携し、3D都市モデルの実装を促進する体制を構築します。

01 データ・カバレッジ拡大

標準データモデルのメンテナンスやデータのコスト低減、データ価値向上等による整備範囲の拡大を目指します。



- A 標準データモデルのメンテナンス**
ニーズを踏まえた仕様拡張、最新の国際知見の取り込み等の標準データモデルのメンテナンス
- B データ整備手法の効率化**
AI自動生成技術の開発・実装等の効率的なデータ整備手法の開発
- C データ高度化・価値向上**
BIM、空間ID等との連携性強化、属性情報(都市計画基礎調査)の充実等のデータ価値(有用性)の向上
- D データ整備モチベート**
データ保有都市の優位性の可視化、データ整備プロセス支援等の地方公共団体のデータ整備モチベーション向上
- E データ整備ケイパビリティの拡大**
測量・3Dモデリング等の地域企業を含む国内のデータ整備人材・産業のケイパビリティ向上
- F データハンドリング技術のOSS化**
品質検査、データ変換、データ解析等のコアとなるデータハンドリング手法の国産技術開発・オープンソース化

02 ユースケース開発

ユースケースのベストプラクティス開発や横展開、コア技術の開発による3D都市モデルのデータの有用性の向上を目指します。

先進技術活用型ユースケース開発

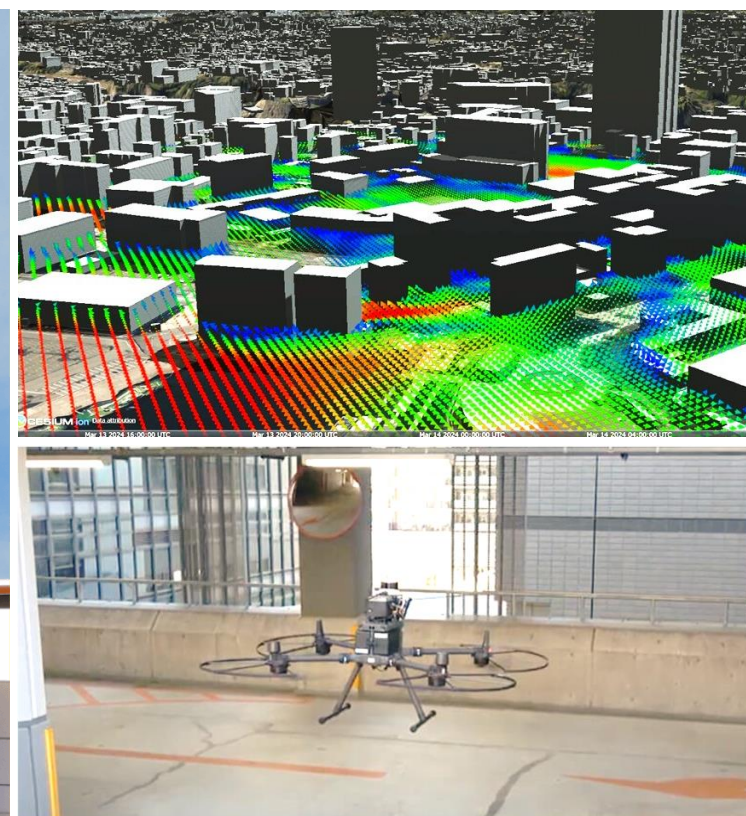
G 新たな技術を用いたサービス開発等の先進的なユースケース開発の
ベストプラクティス創出

先端技術研究型ユースケース開発

H GISやシミュレーション技術等のPLATEAUのコアとなる技術の中長
期的なR&D

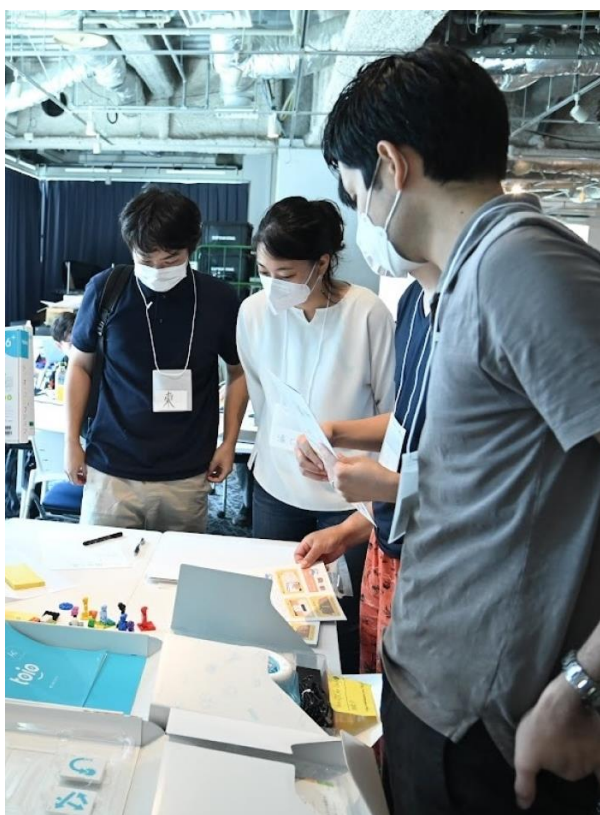
社会実装型ユースケース開発

I ベストプラクティスやPLATEAUナレッジ等を活用した実装レベルの
サービス開発の促進



03 コミュニティ形成

PLATEAUに参画するエンジニア、企業、アカデミズム、市民等のコミュニティを形成し、国内の技術力向上やデータ活用のすそ野拡大を目指します。



J ムーブメント惹起

情報発信や開発イベント等のコミュニティ形成施策など、PLATEAUの認知向上、参加プレイヤーのすそ野拡大

K 地域発コミュニティの形成

地方公共団体、地元企業、地域コミュニティ等が主体となる開発イベントの実施等の地域発コミュニティの形成

L 民間人材開発

トレーニング提供、アクセラレーションプログラム等による民間のPLATEAU人材の拡大

M コミュニティ拡大

スタートアップ、エンジニア、アカデミズム等のコミュニティへのすそ野拡大

N 非エンジニア層の育成

プロダクトデザインや政策活用等をテーマとしたワークショップやアイデアソンの実施

04 サービス実装

民間事業者や地方公共団体による3D都市モデルを活用したサービスの開発・事業化・提供を促進します。

ニーズ・シーズマッチング

- O 地方公共団体や民間事業者のサービス開発ニーズ収集、シーズを持つ技術ホルダとのマッチング等のサービス事業化

地域発サービス創出

- P 地方公共団体や地元企業が主体となった、日常業務に貢献するサービス創出

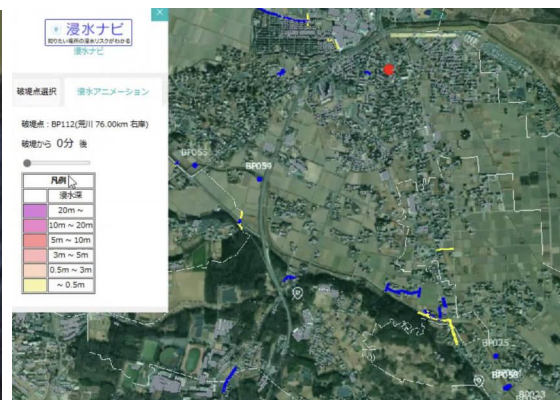
民間サービス実装

- Q 民間領域において社会課題の解決に資する3D都市モデルを活用したサービスの実装



05 地域のデジタルケイパビリティ向上

地方公共団体職員や地域コミュニティ、住民、地域企業等によるデータ活用の知識やスキル、技術の普及を促進します。



地方公共団体のデジタルケイパビリティ向上

R 地域コミュニティと連携したデジタル研修やWS等の地方公共団体・地域企業のデジタルケイパビリティの向上

地方公共団体ネットワーキング

S 導入地方公共団体や関心地方公共団体等が相互に情報交換や連携ができるようなネットワーキングの強化

リビングラボの形成

T 市民を含む地元のコミュニティ発・地方公共団体連携による地域の課題解消

06 オープン・イノベーションの創出

PLATEAU実装へのブレイクスルーをもたらすシーズ開発の支援など、イノベーションの創出を促進します。

データアクセシビリティの向上

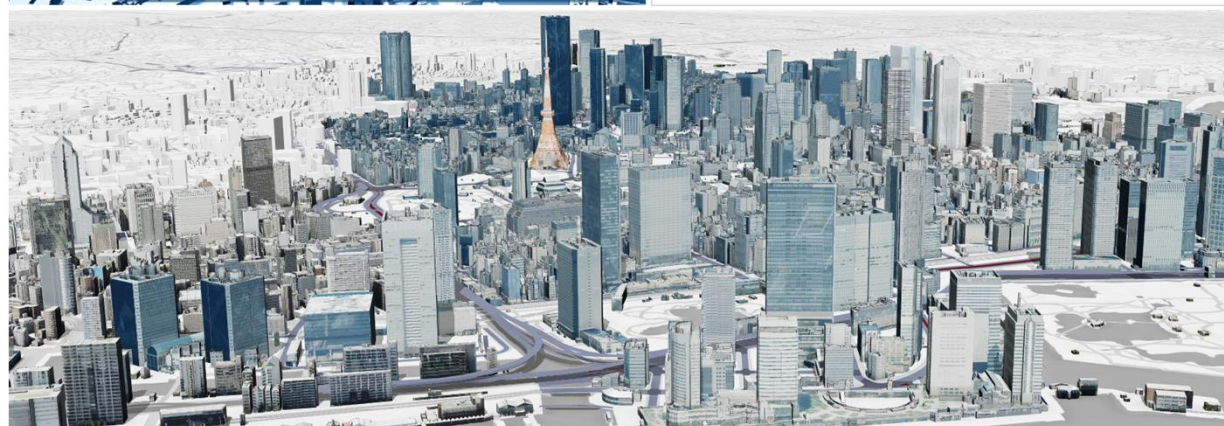
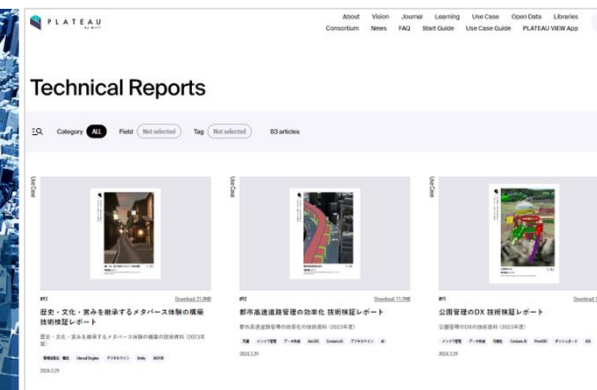
U PLATEAU VIEW開発、PLATEAU SDK開発、データ配信・DLサービス開発など、PLATEAUのデータを活用しやすい環境の整備

開発ナレッジの蓄積・展開

V サービス開発に必要な技術情報を集約し、技術資料、OSS、サンプルアプリ、プラグイン等を公開するなど、PLATEAUの開発ナレッジを共有

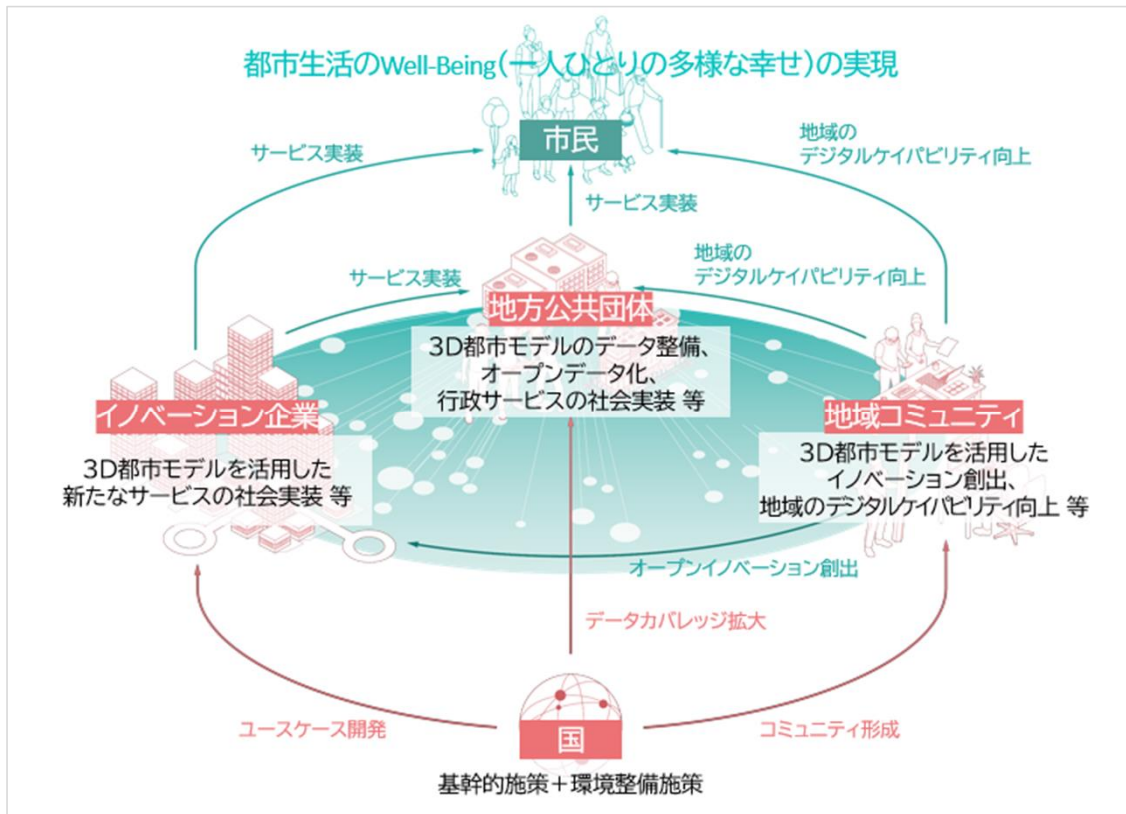
環境障壁の除外

W サービス実装の障壁となる制度的課題等の洗い出し、解消



07 エコシステム構築

地方公共団体、産業界、大学等の研究機関、地域コミュニティ、国等が連携する体制を構築します。



- X 産学官連携PF構築**

多様な企業、地元企業、スタートアップ、研究機関等の幅広い産学官の主体が連携・協同開発・成果共有等をする場の構築
- Y 国際展開**

日本発の3D都市モデル技術をベースとした国内産業の国際展開、国際標準へのコミット、国際連携等
- Z 補助事業の管理支援**

「都市空間情報デジタル基盤構築支援事業」(PLATEAU補助金)の執行管理の支援

FY2026 RFI#1への応募方法

1) 応募書類

「**応募様式**」に**必要事項を記入**の上、2) 提出方法に記載の方法にて提出すること。(補足説明資料の添付も可)。

また、情報提供の内容毎にファイルを分けて提出すること(複数のテーマの情報提供や1つのテーマで複数の情報提供をする場合は、シートを増やさず、ファイルを分けて提出)。

2) 提出方法

下記に示すメールアドレスまで**電子メールで送付**すること。なお、応募書類全体の容量が10MBを超えないようにすること。

3) 募集期間

令和7年6月16日(月)から**令和7年7月15日(火)**まで

<資料提出およびお問い合わせ先>

国土交通省都市局国際・デジタル政策課 担当: 下村、影野、関根、宮崎

TEL 03-5253-8422(直通)

電子メール hqt-mlit-plateaurfi2@ki.mlit.go.jp

※本RFIに関するご質問及び回答内容については、必要に応じて、質問者が特定できない形で整理の上、「FAQ」としてウェブサイトに掲載する。